

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第1回本庄市都市計画審議会
開催日時	令和4年7月29日(金) 午後1時30分から 午後4時00分まで
開催場所	本庄市役所5階 大会議室
出席者	(委員) 尾崎 晴男委員 松本 昇司委員 真下 敏明委員 田端 講一委員 谷田 裕之委員 小賀野 健司委員 山田 康博委員 柿沼 綾子委員 小林 猛委員 木村 和正委員 岩崎 信裕委員 川崎 玉美委員 久保田 克巳委員
	(事務局) 都市整備部都市計画課
欠席者	深田 栄一委員、阿部 俊彦委員
議題 (次第)	次第1 開会 次第2 委嘱状交付 次第3 会長選出 次第4 職務代理者の指名 次第5 会長及び職務代理者挨拶 次第6 諮問及び市長挨拶 次第7 議事 (審議事項) 第1号 本庄市都市計画マスタープランの改定について(本庄市決定) 第2号 本庄市立地適正化計画の改定について(本庄市決定) ・市民意向調査の概要について ・都市の現況と課題について ・都市構造評価からみた本市のSWOT分析について ・災害リスク評価について 次第8 その他 次第9 閉会
配付資料	・次第 ・座席表 ・委員名簿 ・議案概要一覧表 ・検討資料(第1章基礎調査、第2章 市民意向調査、別紙 上位・関連計画等の整理) ・討議資料(資料1 本庄市の現況と総合的なまちづくりの課題(案)、資料2 市民意向調査の概要、資料3 都市構造評価に基づくレーダーチャート・SWOT分析、資料4 災害リスク・防災)
その他特記事項	
主管課	都市整備部 都市計画課

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (都市計画課長)	<p>定刻になりましたので、ただいまより令和4年度第1回本庄市都市計画審議会を開催いたします。</p> <p>本日はお忙しい中、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は進行を務めさせていただきます、都市計画課長の茂木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。恐れ入りますが、事務局の進行・説明につきましては、着座にて失礼いたします。</p> <p>本日は、新型コロナウイルスに関する対策として、入室時の検温やマスクの着用、手指の消毒等にご協力頂き、誠にありがとうございます。委員の皆さまの席につきましても、同対策のもと空間を取った配置となっております。また、会議中に体調が優れない場合は、お近くの職員にお声がけ頂きたいと思っております。</p> <p>なお、本日は、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画改定業務を委託しております東日本総合計画株式会社の担当者も同席しておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、本日の委員の出席状況についてご報告いたします。</p> <p>本庄市都市計画審議会条例第6条第2項では、審議会は、委員及び議事に関係ある臨時委員の2分の1以上が出席しなければ開くことができないと規定しております。本日もご出席頂いております委員は15名中現在13名でございます、2分の1以上の定数に足りておりますので、本日の会議は成立いたしますことをご報告いたします。</p> <p>なお、本審議会は、本庄市都市計画審議会規則第2条に基づき公開いたします。</p> <p>また、同規則第3条の規定により、本審議会の開催について市のホームページで公表し、審議会の傍聴について定員を10名としてご案内したところ、1名の傍聴希望の方がいらっしゃいました。</p> <p>ここで、傍聴人の方に申し上げます。事務局より事前にお配りしました「傍聴上の注意」を遵守して頂きたいと存じます。</p> <p>この「傍聴上の注意」に反する場合には、退場して頂くことがございますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本審議会の会議録につきましては、審議会規則第5条に基づき、議決により非公開とした部分を除いた上で、市のホームページ等により公表することとなりますので、ご承知おきください。</p> <p>また、会議録作成のため、録音させて頂いておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>それでは、市長より皆さまへ委嘱状を交付させていただきます。皆さまの机の前にて委嘱状をお渡しいたします。名簿順にお名前をお呼びいたします</p>

	<p>ので、その場にてご起立をお願いいたします。</p> <p>はじめに、審議会条例第3条第1項第1号に規定されます、「識見を有する者」から選出されました委員よりお呼びいたします。</p> <p>東洋大学教授 尾崎 晴男委員 本庄市自治会連合会 松本 昇司委員 本庄商工会議所 真下 敏明委員 本庄市農業委員会 田端 講一委員</p> <p>続きまして、同項第2号に規定されます、「市議会の議員」から選出されました委員をご紹介します。</p> <p>谷田 裕之委員 小賀野 健司委員 山田 康博委員 柿沼 綾子委員 小林 猛委員</p> <p>続きまして、第2項第1号に規定されます、「関係行政機関又は埼玉県職員」から選出されました委員をご紹介します。</p> <p>埼玉県本庄県土整備事務所長 木村 和正委員</p> <p>続きまして、同項第2号に規定されます、「市内に住所を有する者」から公募により選出されました委員をご紹介します。</p> <p>岩崎 信裕委員 川崎 玉美委員 久保田 克巳委員</p> <p>また、本庄市自治会連合会 深田 栄一委員、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所長 阿部 俊彦委員の2名が、本日はご欠席でございます。</p>
<p>事務局 (都市計画課長)</p>	<p>続きまして、ここで本審議会の会長の選出についてお諮りしたいと存じます。</p> <p>会長の選出につきましては、審議会条例第5条第1項により、同条例第3条第1項第1号の「識見を有する者」の委員のうちから定めるとされております。いかが取り計らったらよろしいか、ご意見がございましたらお願いいたします。</p>
<p>岩崎委員</p>	<p>尾崎委員を推薦いたします。尾崎委員におかれましては令和2年度本庄駅周辺及び児玉駅周辺市街地、この2地区の都市再生整備計画の事後評価委員会でご一緒し、委員長を務めて頂きました。また現在県の都市計画審議会の会長を務めておられます。ご適任かと思っておりますので、ご推薦申し上げます。</p>

様 式

事務局 (都市計画課長)	<p>ありがとうございます。ただ今、尾崎委員に会長をとの案がございましたが、皆さまいかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>よろしければ、ここで皆さまの拍手をもって尾崎委員の会長就任について、ご承認を頂きたいと存じます。</p> <p>(一同拍手)</p> <p>ありがとうございました。それでは、ご承認を頂けましたので尾崎委員に会長をお願いしたいと存じます。尾崎委員、ご承諾頂けますか。</p>
尾崎会長	<p>謹んで承ります。よろしく願いいたします。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>ありがとうございます。それでは、尾崎委員には会長席へご移動願います。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>続きまして、審議会条例第5条第3項の規定では「会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する」とされております。つきましては、会長の職務代理者を、会長からご指名を頂きたいと存じます。</p>
尾崎会長	<p>ただいま事務局より、私の職務代理者の指名について、お話がありました。</p> <p>事務局にお伺いいたしますが、昨年まではどのように職務代理者を決めていらっしゃいましたか。</p>
事務局	<p>昨年までは在任期間が最も長い方を指名していらっしゃいました。なお、昨年度の職務代理者は岩崎委員に務めて頂いておりました。</p>
尾崎会長	<p>では、岩崎委員に昨年に引き続き職務代理者をお願いできればと存じますが、引き受けて頂けますでしょうか。</p>
岩崎委員	<p>お引き受けします。</p>
尾崎会長	<p>それでは、岩崎委員に職務代理者をお願いしたいと思います。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>会長及び職務代理者が決定いたしましたので、ここでお二人から、ご挨拶を頂きたいと存じます。</p> <p>はじめに、尾崎会長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
尾崎会長	<p>ただいまご推挙を賜りました尾崎でございます。先ほどご紹介頂きましたが本庄市とは何かと縁がありまして、今回委員になり、是非まちづくり、都市計画について微力ではございますが皆さま方のお力をお借りしながら審議会を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。続きまして岩崎委員お願いいたします。</p>

(都市計画課長)	
岩崎委員	ご指名頂きありがとうございます。尾崎会長を助け、本庄市のために頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。
事務局 (都市計画課長)	ありがとうございました。 続きまして、吉田市長から尾崎会長に諮問させていただきます。
吉田市長	本庄市都市計画審議会条例第2条の規定に基づき、次の事項について諮問します。 1、本庄市都市計画マスタープランの改定について（本庄市決定） 2、本庄市立地適正化計画の改定について（本庄市決定） 以上、諮問いたします。
事務局 (都市計画課長)	続きまして、吉田市長よりご挨拶を申し上げます。
吉田市長	<p>皆さまこんにちは。昨日は本庄市も豪雨に見舞われ、各所で冠水または床上、床下浸水の被害がありました。被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。また本日は打って変わって大変暑い日になっています。まだまだ災害を心配するところがございます。災害に強い都市というのもこれから大きな課題になると感じています。加えて長年の日本の課題でございます少子化、高齢化の中でいかにして地域社会を持続可能なものにして次世代につないでいくか、大きなテーマになっているところです。</p> <p>その中で都市の在り方を各自治体によってしっかりと方向性を決めるために、この都市計画審議会は大変重要な役目を果たしています。本日おいでの方の皆さまにおかれましては、それぞれの分野でまちづくり、都市づくりについて造詣が深い見識をお持ちの皆さま方であると感じています。</p> <p>改めて今般、第1回の都市計画審議会の発足にあたりまして、皆さま方に本庄市の将来にわたっての持続可能なまちづくりのために、より一層ご尽力頂きたいということをお心からお願い申し上げます。先ほど尾崎会長に2点諮問させていただきました。都市計画マスタープラン、そして立地適正化計画、それぞれ策定して10年、または5年経ち、中間点ということで見直しや改定が必要な時期になっています。</p> <p>現下の社会情勢、また将来にわたって本庄市がしっかりと子や孫に立派な形でバトンタッチしていくために、都市づくりにおいて皆さま方に大いに忌憚のないご意見、ご指導を頂きながらこの2つの計画の改定を進めて参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。</p>
事務局 (都市計画課長)	ありがとうございました。ここで誠に申し訳ございませんが、市長はこの後、別の公務が入っているため退席させていただきます。 (市長退席)

	<p>次に、議事に入ります前に、本日の資料を確認させて頂きたいと思いません。</p> <p>本日の会議資料は、事前に郵送いたしました資料と、当日資料として「配布資料一覧表」「情報提供資料」を机の上に置かせて頂きました。お配りした資料は「配布資料一覧表」のとおりでございます。</p> <p>資料の不足等ございましたらお知らせください。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これより議事に入らせて頂きたいと思います。</p> <p>議事進行につきましては尾崎会長にお願いしたいと存じます。</p>
尾崎会長	<p>改めまして、委員の皆さま方には、ご多忙中のところ、本庄市都市計画審議会にご出席頂き、誠にありがとうございます。審議にあたりましては、慎重かつ効率的に進めさせて頂きますので、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の非公開議案等についての審査をいたします。</p> <p>審議会規則第2条では、審議会の会議は、公開とする。ただし、公正かつ円滑な議事の運営に支障が生じると認められる場合であって、出席した委員の3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができるとされております。</p> <p>本日の議決は、「本庄市都市計画マスタープランの改定について」及び「本庄市立地適正化計画の改定について」でございますので、私といたしましては、本日は非公開にすべきと思う議決はございません。</p> <p>非公開事項に該当する議案がございましたら、ご提案をお願いいたします。</p> <p>ご提案は無いようなので、本日非公開とする議案は無しということで進めさせて頂きたいと存じます。</p> <p>次第に従いまして、議事に入らせて頂きます。審議事項は第1号「本庄市都市計画マスタープランの改定について」、第2号「本庄市立地適正化計画の改定について」でございます。今回の審議事項は、内容が共通しているため、第1号、第2号議案を併せて事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>先ほど市長より諮問させて頂きました「都市計画マスタープラン」及び「立地適正化計画」の両計画改定については、本年度、全3回の審議会にて審議をして頂き、最終的には来年3月を予定しております第3回の審議会において最終的な答申を頂く予定となっております。</p> <p>今回は全3回のうち、第1回目ということで、昨年度より行っております市民アンケートなどの各種基礎調査の結果について、ご報告させて頂き</p>

	<p>ます。</p> <p>説明につきましては、両計画の改定業務を委託しております、東日本総合計画株式会社の担当者よりご説明申し上げます。</p>
<p>コンサルタント</p>	<p>「都市計画マスタープラン」及び「立地適正化計画」の2つの計画の改定をお手伝いさせて頂いております、東日本総合計画と申します。よろしくお願いたします。それでは内容をご説明いたします。</p>
<p>コンサルタント</p>	<p>お手元の資料についてご説明いたします。配布された資料は全部で7つあります。厚い資料が3冊ございまして、基礎調査、基礎調査の別紙として本庄市・埼玉県の上位関連計画の抜粋、第2章市民意向調査がございます。これらを踏まえて現況と課題を整理し取りまとめた内容を本日はご報告させて頂き、皆さまからのご意見を頂戴したいと思っております。この厚い資料ですと大変ですのでこれらの抜粋として資料1から資料4として整理をしております。</p> <p>資料1につきましては、本庄市の現況、アンケート等踏まえて都市計画マスタープランを見直すにあたって、総合的なまちづくりの見直しへの取り組みの視点を整理したものです。資料2は今回実施した3種類のアンケートの内容を整理したものです。資料3につきましてはレーダーチャートやSWOT分析、本庄市の特性や課題を整理したものです。資料4につきましては災害リスク、防災についての整理をしたものでございます。資料3、資料4につきましては基礎調査資料内の(10)(11)をそのまま掲載しております。それでは資料1「本庄市の現況と総合的なまちづくりの課題(案)」をご覧ください。これは今申し上げましたように、本庄市の現況をおさらいし、総合的なまちづくりの見直しへの取り組みの視点を整理したものです。資料内の右下にアンケートの結果を抜粋したものがございます。その他については皆さまご存知のことも多いかと思っておりますので、まずは意向調査の概要についてご説明いたします。</p> <p>資料2「市民意向調査の概要」をご覧ください。</p> <p>意向調査は「市民アンケート」「中学生アンケート」「事業所アンケート」の3種類を実施しました。「市民アンケート」「事業所アンケート」は平成24年3月に実施されているため、設問はできるだけ整合をとるようにしました。</p> <p>「1 市民アンケート」の概要をご説明いたします。</p> <p>調査の対象は、市内にお住まいの16歳以上の方から抽出した3,500人となりました。前回アンケートでは、20歳以上、3,600人を対象としていました。調査票は郵送配布・回収に加えて、スマートフォンやタブレット等を利用したウェブからの回答もできるようにしました。令和4年3月24日に調査票を発送し、返送の締切りを4月11日としましたが、5月9日までに返信されたものを集計対象としました。調査票回収数は1,268票、内ウェブ</p>

<p>回答 191 票で、回収率は 36.2%でした。前回アンケートに比べ、回収率は 2.5 ポイントアップしています。設問構成は、「回答者の属性と行動範囲」「暮らしやすさなど」「将来のまちづくり」「まちづくりへの参加」の 4 つの大項目、計 27 問としました。</p> <p>「回答者の属性と行動範囲」ですが、問 2 「年齢」では「70 歳以上」が 3 割弱で最も多く、「60 歳以上」だと 5 割強となっています。問 5 「居住継続年数」は「30 年以上」が 6 割強を占めています。問 6 「居住理由」については「生まれたところだから」という回答が 4 割強を占めております。</p> <p>「通勤・通学」先は 4 割強が「本庄市内」で、「児玉地域方面」「深谷・熊谷方面」「上里・藤岡方面」が 10% 台となっています。日常生活での行動圏域は概ね「本庄市内」ですが、「贈答品などの買い物」などは「高崎・前橋方面」に行く人が多くなっています。日常の交通手段は「自家用車」が圧倒的に多く、「通勤・通学」においても「鉄道（高崎線、新幹線、八高線）」は 1 割強、「民間路線バス」は 0.7% と低い割合となっています。</p> <p>「暮らしやすさなど」に関しては、市に愛着を感じている人、市に住み続けたい人は 7 割強。若泉公園、本庄総合公園、こだま千本桜などが好まれています。「災害の少なさ」を評価する人が 6 割強。その他「日常の暮らしやすさ」「交通環境がよい」「豊かな緑や水辺などの自然環境」が評価されています。本庄市は「住みよい」とする人は 8 割弱となっています。14 項目について、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」という評価を聞いており、それぞれに評点を与えて満足度指数を計算しています。満足度指数は殆どの項目でプラスになっています。一方、「自然環境、公園や緑地など緑の豊かさ」「地震・水害などの自然災害に対する安全性」「買い物の利便性」の満足度指数は高く、「鉄道やバスなど公共交通機関の整備」「医療機関や福祉施設等へのアクセス」「育児関連施設へのアクセス」「生活道路の整備」「まちの防犯性」の満足度指数が低くなっています。今後も「本庄市内に住み続けたい」は 7 割強。市外に移転したい理由は「都市的な魅力に欠けている」「通勤・買い物に不便」「周辺環境に不満がある」が 3～4 割となっています。</p> <p>将来のまちづくりに関しては、望ましい居住地として「医療機関が充実しているまち」が最も多く、「災害の不安が少ないまち」「買い物が便利なまち」が続いています。安全・安心・利便に住み続けられる環境整備が多く望まれているという結果となっております。望まれている施設整備としては、「病院などの保健・医療施設」「高齢者のための福祉施設」「電車、バス等の公共交通の利便性強化」「歩道や歩行者専用・優先の道路」「市外からも人の集まるショッピングセンター・娯楽施設」「買い物に便利な賑わいのある商店街」が多くなっています。</p> <p>まちづくりへの参加に関しては、まちづくりの担い手としての意識が高</p>
--

<p>く、計画づくりへの参加も見込まれます。市の都市計画や都市計画マスタープランの認知度は低いですが、7割強がまちづくりの主体は「市民」とし、その他の主体についても一定割合を占め、まちづくりは多様な担い手の協力により進めるものだとして認識されています。まちづくりに協力する意向のある方は6割弱、また、多くの方が具体的に協力できるとしています。</p> <p>次に「2 中学生アンケート」の概要をご説明いたします。</p> <p>調査の対象は、令和4年度に市内の市立中学校4校に在籍する3年生全員を対象としました。調査票の配布・回収は、各学校にお願いしました。令和4年4月に調査票を配布し、5月に回収しました。調査票回収数は499票でしたが、配布数が分からないため回収率は不明です。設問構成は、「回答者の属性」「暮らしやすさなど」「将来のまちづくり」「まちづくりへの参加」の4つの大項目、計8問としました。</p> <p>「回答者の属性」は、「本庄北地域」「本庄南地域」「児玉北地域」がそれぞれ3割弱から3割強を占めていますが、「児玉南地域」は1.2%と少なくなっています。余暇時間は「勉強やテレビ鑑賞、ゲーム、SNSなど」が9割強と最も多く、その他「買い物や食事」「学習塾やその他の習い事」「スポーツ」が多くなっています。「映画館などのレジャー」「スポーツ」「学習塾や習い事」は友人と一緒に過ごす傾向が強くなっています。</p> <p>「暮らしやすさなど」に関しては、「災害の少なさ」を評価する人が5割弱、その他「豊かな緑や水辺などの自然環境」「日常の暮らしやすさ」「歴史や伝統」が評価されています。市民アンケートに比べ、「豊かな緑や水辺などの自然環境」「歴史や伝統」の割合が高くなっています。今後も「本庄市内に住み続けたい」は3割弱、「わからない」は5割弱を占めています。市民アンケートでは、「住み続けたい」が7割強を占めています。</p> <p>将来のまちづくりに関しては、望ましいまちとして「買い物が便利なまち」が最も多く、「にぎわいがあるまち」も多くなっています。また、「自然環境に恵まれているまち」「地球環境にやさしいまち」「災害の不安が少ないまち」「防犯に優れているまち」も多くなっています。市民アンケートに比べ、「自然環境」「地球環境」「景観」「にぎわい」に関する要望が高くなっています。</p> <p>「まちづくりへの参加」に関しては、都市計画という言葉や内容について「知らない」は6割強ですが、「知っている」も4割弱を占めています。まちづくりに対して「興味がある」は4割強、まちづくり活動に協力する意向のある人は7割弱と多くなっています。</p> <p>続いて「3 事業所アンケート」の概要をご説明いたします。</p> <p>調査の対象は、本庄商工会議所及び児玉商工会の各会員名簿より、無作為に抽出した200社としました。調査票は郵送配布・回収とし、調査期間は市民アンケート同様としました。調査票回収数は98票、回収率は49.0%</p>
--

<p>でした。前回アンケートに比べ、回収率は2ポイントダウンしています。設問構成は、「事業所の概要」「本庄市におけるまちづくり」「集約型のまちづくり」「地域のまちづくり」の4つの大項目、計17問としました。</p> <p>「事業所の概要」に関しては、中小企業が多く、長年現地で営業し将来も現地で営業したいとお考えで、駐車場を確保しづらいことが問題だとしています。「サービス業」が2割強で最も多く、「建設業」「卸売業・小売業」「製造業」が続いています。従業員数は8割弱が「10人未満」となっています。営業年数は「20年以上」が7割弱、「5年未満」は1割強となっています。現在地での営業理由は「代々この地で事業を行ってきたから」が6割弱と最も多く、「人の移動に関する交通の便がよいから」が3割弱と次いでいます。現在地での営業上不都合なことについて、「特に問題になっていることはない」「駐車場、荷捌きスペース、駐輪場等が確保しづらい」が多くなっています。今後の事業展開について、「現在地で現状のまま事業を継続」が6割強で最も多く、「現在地で事業を拡大」と合わせると、8割弱が「現在地で事業を継続する」としています。</p> <p>「本庄市におけるまちづくり」に関しては、市の利便性を高める方向性が支持されていますが、自社の事業環境に関しては少し緩い考えが示されています。円滑な事業活動を行うための環境づくりと地域のまちづくりについて、「土地利用や建物の使い方などについては、緩やかな制限とし、工業地域・商業地域・住宅地域がある程度混在することは、やむを得ない」が4割強と多くなっています。都市計画マスタープランにおいて力を入れていくべき取り組みに関して、「都市の一体性を確保し、利便性を向上させるために必要な道路・交通ネットワークの整備」「身近な公園整備や安心して歩ける歩道整備・自転車道の整備など、生活環境の改善」「人口・産業の見通しに応じた適切な市街地形成と市街化調整区域内の無秩序な開発の規制」が3～4割程度を占めています。将来の土地利用の方向性について、「山林や農地などの自然的土地利用の保全を優先したまちづくり」「二酸化炭素の排出を少なくするなど、環境に配慮したまちづくり」が2割台と多くなっていますが、「積極的に住宅地の開発を進めるまちづくり」も3割弱を占めています。</p> <p>「集約型のまちづくり」に関しては、方向性としては支持されていますが、自社の事業展開との関連ではあまり認識されていない傾向が見られます。7割弱が「集約型のまちづくりを推進すべき」としていますが、事業運営にあたって6割弱は「事業所周辺に人口が集積していることは重要ではない」、5割弱が「駅周辺などの拠点に公共施設や店舗等の集約を図ることは必要ない」としています。事業所や店舗等の移転・新設の際、集約型まちづくりの実現のために市内3駅周辺への立地を求められた場合の考えは、「わからない」が4割弱と最も多くなっていますが、「立地条件がよければ</p>
--

<p>応じる」「融資や税制優遇などの助成制度があれば応じる」が2割程度を占めています。公共交通がさらに充実した場合の事業展開への影響については、「特に考えはない」「公共交通がさらに充実しても事業所周辺の交通量は減らないと思うので、来客数や売上高はこれまでと変わらない」が多くなっていますが、3割強が事業展開の向上につながるとしています。</p> <p>地域のまちづくりに関しては、緑化・美化活動や基金への寄付などのまちづくりに関わる活動について、6割強が「既に参加している・参加・協力したい」としており、参加意向は高くなっています。</p> <p>資料2の説明は以上です。</p> <p>資料1「本庄市の現況と総合的なまちづくりの課題（案）」をご覧ください。</p> <p>これは、本庄市の特性と大きな社会経済動向等を踏まえた都市計画マスタープラン改定に向けた視点を整理したものです。縦の並びで左側が「歴史的な背景」、中ほどの左が「本庄市を含む社会経済の動向」、中ほどの右が「市民意向」、右側が「総合的なまちづくりの課題」となっています。</p> <p>歴史についてのご説明は割愛します。</p> <p>現況については皆さまご存じだと思いますが、本庄市の都市社会、都市環境の現況と動向に関して特徴的なことをご説明いたします。</p> <p>社会的状況に関しては、次のようなことがあげられます。人口は2000年82,670人をピークに減少傾向が続いていましたが、2015年～2020年には微増に転じています。地域別では早稲田の杜、児玉町児玉南で増加人口が多く、年齢別には子育て層とその子供の転入が見られます。昼夜間人口比率は1.02と流入超過となっており、転出入は群馬県との関係も強くなっています。農業は野菜、畜産を中心として営まれており、農家一戸当たりの農業産出額は北部地域の中では最も高く、鶏の農業産出額の県内シェアは約41%を占めています。また、作付面積がトップクラスとなる野菜が栽培されています。製造業は輸送用機械器具製造、食料品製造、情報通信機械器具製造、印刷・同関連業製造が中心であり、従業者当たりの製造品出荷額等は県平均の1.3倍となっています。小売業の年間商品販売額は減少傾向にありますが、住民1人当たりの小売販売額は県平均の1.1倍の水準と、購買者が流入しています。卸売業の年間商品販売額は北部地域の中では熊谷市に次ぐ規模であり、従業員1人当たりの販売額は熊谷市の2倍以上の水準となっています。平成21年から平成28年で9倍以上となっています。</p> <p>土地利用、都市基盤整備状況に関しては、次のようなことがあげられます。旧本庄市の全域と旧児玉町の一部、合計7,378haが都市計画区域（本庄都市計画区域、児玉都市計画区域）となっています。市域の約62%が自然的土地利用、約38%が都市的土地利用となっています。市街地開発事業等では、2013年に本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業が完了しています。</p>

	<p>36 路線、67.8 kmの都市計画道路のうち約 67%が整備済みであり、国道 17 号バイパスの整備が進められています。</p> <p>「歴史的な背景」「本庄市を含む社会経済の動向」「市民意向」や「上位関連計画の方向性」を踏まえて、総合的なまちづくりの課題を整理しました。現在の都市計画マスタープランは、持続可能な都市を実現するため、3つの拠点の連携を基本とした集約型都市構造の実現が目標とされました。目標とした都市構造は実現されつつあり、その成果も出てきています。このような状況を踏まえれば、今後 10 年間は持続可能な都市実現に向けた第 2 ステップとして、「都市活力を維持・発展させる総合的な取組の推進」を目標とすべきだと考えられます。具体的には、「安全・安心で利便性の高い環境を整える」「地域経済と雇用を支える産業を育成する」「豊かな自然や歴史・文化の環境を守り、活かす」、そしてこのような取り組みを「多様な担い手の協力によりまちづくりを進める」という枠組みを総合的なまちづくりの課題（案）としました。</p> <p>資料 1 のご説明は以上です。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。ただいまのご説明に対してご意見、ご質問がございましたらよろしくお願いいたします。何かございますか。</p>
久保田委員	<p>まず、なぜ調査対象が中学生だったのか疑問はありますが、アンケートは非常に分かり易くて良いと思います。次に資料 1 で、まとめて頂いているのですが、左から右に来て一番右、率直に言ってなんだこれは、と。どの県に行っても東京都に行っても、どのまちに行ってもあるようなテーマだと思いました。具体的に何ですかというところです。それから 10 年計画を 5 年間実施してきた結果の分析がこの資料の中に入っていません。長く時間をかけ、コストを使って実施してきた結果はどこかということ、民間企業ならそこがまず問題になると思います。実施したことが正しかったのか、なぜうまくいったのか、なぜうまくいかなかったのか、そこを分析していないと次は無いと思います。たくさん資料を戴いて、斜めにさっと見たのですが、言葉を追っていくと地図と美辞麗句があるけれど、数字が無い、KPI が無い、何パーセント達成したか全く分からない、これが非常に問題です。よく分からないというところが実感です。</p>
事務局	<p>質問の回答ですが、まず中学生のアンケートについては、3,500 人のアンケートは高校生から回答できるということで、中学生も本庄市の将来を背負うという意味ではあるだろうという考えで、今回中学生に聞いてみても面白いということで範囲を広げました。分析結果から今後どのような形で計画に反映して行くかということは、あと 2 回の審議会で、しっかりと揉んでいきたいと思っています。</p> <p>また、これまでの取り組みの結果ですが、数字や KPI など、現在作業を進めているところです。今回第一回目の資料は、これまでの本庄市の分</p>

	<p>析や、アンケートの結果、また、この後の資料のご説明でもありますが、現在の本庄市をしっかりと見るということを今回のテーマとしております。これから、これまでの取り組みの成果を踏まえて、皆さまと今後の方向性を定めていけたらと思っていますので引き続きお願いいたします。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。他にご意見、ご質問がございましたらよろしくお願いいたします。何かございますか。</p>
久保田委員	<p>途中だということは分かりました。本審議会にて審議できる回数が少ないので、できるだけそこを確認することが責任だと思っているのでよろしくお願います。もう1点、これからのご説明でもあると思うのですが、どこを目指すのかというのが見えていないです。SWOT分析もなぜ実施したのか分からないです。レーダーチャートもそうですが平均的な内容しか示されていないため、これでは日本のシュリンクと同じように本庄市のシュリンクも、悪くはないけれどまあ良いかと。住んでいる人も非常に長く住んでいて平均的な答えです。外から人も来ないので、シュリンクするしかない、尖らせなければいけないのです。何を指してマスタープランを作っていくのか明確にご説明して頂きたいので、よろしくお願います。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。久保田委員からの今のご指摘、今後2回目3回目では是非反映して頂きたいと思えます。この後ご説明が続きますが、今回は改定ですので前のプランについてどうだったかというような、いわゆるPDCAという言葉も使われるようですので、そういうことも踏まえて反映し、見直しながら進めていってください。他にご意見、ご質問がございましたらよろしくお願いいたします。何かございますか。</p>
小賀野委員	<p>資料2の2ページ目、調査結果の内容ですが、回答者の70歳以上が3割弱、60歳以上が5割強ということで、60歳以上の人がほとんど回答しています。これはアンケートとして適切なのか疑問を感じます。また5ページの中学生アンケートの回答者の属性ですが「本庄北地域」「本庄南地域」「児玉北地域」がそれぞれ3割弱から3割強、「児玉南地域」は1.2%と少なくなっていますが、これもアンケートとして実効性があるのか、これをそのまま資料として当てはめることが適切なのか非常に疑問です。</p>
尾崎会長	<p>アンケート、市民調査に関する考え方のご説明をお願いします。</p>
コンサルタント	<p>市民アンケートの年齢層については、市全体の高齢化率なども考えますと年齢層が高くなるというのは必然的だと思います。今回若い人からの意見も、できるだけ汲み取りたいということでウェブによる回収も実施しました。ウェブの回収率も1割強得られましたので、そういった意味では、若い方の意見も比較的掬えたのではないかと考えています。</p> <p>もう1点、中学生アンケートですが、当然回答者の属性としまして「本庄北地域」「本庄南地域」「児玉北地域」「児玉南地域」と中学校の生徒数に</p>

	<p>よる割合となっております。今回なぜ中学3年生を対象にしたかということ、中学3年生になると高校受験など今後の進路、将来について考える時期にあたってくるのではないかと考えております。そこで本庄市のまちづくり行政に興味をもってもらうなど、種まきの意味も含めて中学3年生を対象にアンケートを取らせて頂きました。結果的にまちづくりに興味があるという生徒、今後まちづくりに協力したいという生徒は7割と、市民アンケートよりかなり高い興味を示していますので、この種まきの結果を育てながら自分の住んでいる本庄市に興味をもって頂きたいと考えております。</p>
小賀野委員	<p>あまりにかけ離れていると思います。60歳以上が6割ほどの回答率です。他の地域の中学生からの回答は3割強を占めているのに「児玉南地域」の中学生からの回答はわずか1.2%です。他の地域と比較すると30%くらい違うので、このアンケートに実効性があると私は思っていないが、いかがでしょう。</p>
コンサルタント	<p>まず市民アンケートの年齢層についてですが、本庄市の人口の構成から考えますと、そのまま縮小した形になりますので、統計的には意義があるものと考えています。中学生アンケートの児玉南地域の1.2%は人数的には少なくはなっているのですが、中学3年生全員に対し意見を徴収しておりますので、それも意義があることと考えております。</p>
尾崎会長	<p>調査の方法は、よく分かりませんがおそらく無作為抽出していると推察される文言があり、結果から4つの地域では大体お住いの人数と同じような回答であったことは承知しています。ただ年齢構成は、実態とあっていないのご指摘はおっしゃるとおりだと思いますので、そのあたりはそういう回答が得られたということ的前提に、この数字を使わせてもらわないと、ご指摘のような疑念は残ります。そのあたりは配慮しながら使って頂きたいということだと思いますのでよろしくお願ひします。</p> <p>他にご意見、ご質問がございましたらよろしくお願ひいたします。何かございますか。</p>
小林委員	<p>都市計画課主導で依頼し意向調査で市民の意見をまとめたのですが、このアンケートを行った会社からの本庄市に対するアドバイスや、こういう点が低かった、不人気だったので、市はこういうことに力を入れたらこうなるなど、アドバイスも少し文章の中に見えるありがたいです。その辺りのご意見を意向調査を実施された会社の方にご説明して頂きたいと思ひます。また市の方には、この意向調査を取られて、どのような事を参考に今後どのように心がけていきたいと思われているのか、その辺りの意見も伺えればと思ひます。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。では、まずはどちらにお答え頂きましょうか。</p>
コンサルタント	<p>他の都市でも同じようなアンケートを実施していて、違いがあるというのは確かに感じます。例えば安全、快適、利便ということになっています</p>

	<p>が、もう少し都市部では快適というところに目が行っている状況になっています。違いがあるという認識はしていますが、それを踏まえて本庄市ではどうかという、そこまでの読み込みはしていないというのが正直なところだと思います。今後、今の計画をどう見直していくかというところで、市民の皆さまのご意向、総合的かつ具体的に整理をしていきたいと思っています。それは今回の課題になるべく反映させたいつもりですが、もう少し本庄市の今回のアンケートで特徴的なところはないかということも、もう一度再確認しながら検討していきたいと思っています。大変申し訳ありませんが、今の質問に対して適切な回答をすることは難しいです。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これから検討しますということのようでございます。ありがとうございます。</p> <p>他にご意見、ご質問がございましたらよろしくお願ひいたします。何かございますか。</p>
小林委員	<p>市の方でアンケートを取られて何か参考にすることはありますでしょうか。</p>
事務局	<p>コンサルタントに入って頂いた大きな理由として、私たち本庄市の職員というのは何十年も本庄市に住んでいて、良さも不便さもなかなか見つけづらく、感じづらくなっていくということもありますので、全国的な市町村の事例を知っているコンサルタント会社を選定させて頂きました。先ほどコンサルタントからお話がありまして、本庄市の特徴は何なのか、他の市町村に無い所謂尖った部分はどこなのか、しっかりと炙り出し、それをどのように計画に落とし込んで市民の皆さまと共有し、様々な担い手と一緒に1つの目標に向かって進んでいけるような、周知、アピールの仕方を併せて行っていきたいと思っております。今炙り出しの作業で、他の市町村との違いをコンサルタントにまとめて頂いておりますので、その結果をもって本庄市も真摯に受け止め、計画改定に向けて文言等の調整をしていきたいと考えております。</p>
小林委員	<p>言いづらいところもありますが、コンサルタントは本庄市の欠点や、良くないところなどを指摘して頂きたいと思っております。事務局は真に受けていいものと、アンケートの意向調査だけをつかむのではなく、具体的な目標を立てた上で、アンケート調査をコンサルタントに依頼して活かしていく。お金をかけた作業になっていますので、もう少し前向きにその辺りも見せて頂きたいと思っております。コンサルタントにも1つ意見をお願いしたいことがあります。最初の質問の中で、不人気な点や、いまいちな点など現れているわけですので、市に対するアドバイスを多少頂けるとありがたいです。事務局は参考にしながら、市独自のことを付け加えて、活かしてもらえるとお金をかけた価値が見えてくると思うのでよろしくお願ひします。</p>

尾崎会長	<p>ありがとうございました。このあとの資料3、資料4でコンサルタントが考えて分析された結果もありますので、それをご説明して頂いた後に、ご指摘、ご意見を頂く機会を持ちたいと思います。それで足りないようであれば、またおっしゃって頂ければと思います。</p> <p>では、皆さま、都市構造評価の分析、あるいは災害リスク・防災という面での分析もしているようですので、そちらを紹介してもらいたいと思います。</p>
コンサルタント	<p>資料3資料4については主に立地適正化計画の策定に係る事項でございます。先ほどの市民アンケートが市民の方々の主観的な評価をしているものとすれば、資料3に関しては統計的なデータだけを使って評価しているもので主観は入っておりません。</p> <p>評価の手法としては、国交省が立地適正化計画を策定するにあたり都市構造評価という手法を提唱しており、全国平均と比較できるようなレーダーチャートを作れるツールがあります。これを用いて、本庄市は人口10万人未満の自治体に含まれますので、全国の町村も含む人口10万人未満の自治体平均を偏差値50とすることにより、様々な項目の偏差値を出すことによって、本市の置かれている状況をみます。立地適正化計画を策定して運用してきた結果として、現在どこまでコンパクトシティ化が進んでいるのかということの評価するレーダーチャートを作って分析しております。</p> <p>併せまして、SWOT分析を行っていますが、これはよく企業などで戦略を立てるときに使うような考え方です。SはStrength「強み」、WはWeakness「弱み」、OはOpportunity「機会」、TはThreat「脅威」を表す頭文字です。この4分類のチャートで本市の特徴を分析しようという試みをしています。ただ、全国平均との比較だけですと見えにくいところもあったので、補足として近隣の人口規模の近い都市との比較も行っておりますので併せてご説明いたします。</p> <p>項目が多いのでいくつかの項目をまとめてレーダーチャートを作っています。資料2ページは人口・防災・財政というカテゴリーになります。人口の特徴ですが、本市の場合は平均と比較して市街化区域・市街化調整区域ともに人口密度は高くなっています。先ほど申しましたように小さな町村を多く含んだ平均ですので、その中でみるとコンパクトで密度が高いという都市構造になっています。続いてDID、人口集中地区という国勢調査の指標で、これは人口がどのくらい集まっているかということを示しています。昭和45年と平成27年ともに平均と比べると人口密度は高め、既成市街地の集中度は高めということになります。</p> <p>人口の推移についてですが、夜間人口、昼間人口ともに全国的に減少しておりますが、平均と比べると本市は減り方が緩やかという特徴が見受けられます。国の方で各都市の将来人口の見通しというものを示しています</p>

<p>が、本市は平均と比べると緩やかに減っていくと見通されています。</p> <p>続いて防災です。防災について本市は浸水想定区域の面積が都市全体で見ると大きいことが特徴ですが、避難所までの距離は短い。つまり適切に避難所が配置されているということが言えます。</p> <p>財政に関しては都市の財政規模によって評価は難しいのですが、単純に1人当たりの歳入歳出額を見ると平均よりは低いという傾向がありました。</p> <p>次に、②生活利便性です。都市構造に係る部分ですが、1つ目の指標は交通です。徒歩圏カバー率という評価の仕方をします。例えば公共交通であれば、鉄道駅やバス停から円を描いて、そこに含まれる人口がどのくらいの率であるかという評価をします。本市はこれが平均より高いという評価になっていますので、交通の利便性は比較的高いということが言えます。なおかつ、公共交通の沿線の人口密度、これは人口が減りすぎて廃止になってしまうというようなことが心配されていますが、これについても本市は平均より高いということで、持続可能な水準は維持されていると言えます。マイカーへの依存度を見るとときに1人当たりの小型車の走行台キロ、どのくらい走っているかという指標を見るわけですが、これも平均と比較すると低めです。マイカー依存であると皆さま思われていると思いますが、地方などと比較するとそこまで依存していないということが数字的には出ています。続いて、施設の利用のしやすさということですが、医療施設・商業施設に関しては徒歩圏カバー率が平均より高い、アクセスしやすいという形になっていて、施設側からみた人口密度も平均よりは高いということになっています。申し訳ございませんが、福祉施設に関しては他にも何回か出てきますが、データが欠落していましたので評価は差し控えます。</p> <p>続いて4ページ、③健康福祉・安全・産業について見ていきます。福祉施設については先ほど申しましたようにデータが欠落していましたので飛ばします。保育所徒歩圏の0～4歳人口カバー率は平均よりも高めの評価となっています。続きまして都市全体の平均寿命が出ていますが、全国平均と比べると女性の平均寿命が短くなっています。健康づくりに関わるものとして住区基幹公園、これは身近な街区公園や地区公園の配置の状況ですが、平均よりも高い、正しく配置されているという評価になっています。</p> <p>安全性ですが、交通安全を見ると道路に歩道がどのくらい設置されているかということが問題ですが、歩道の設置率は比較的高く、歩行者の安全性は平均より高いということになります。空き家率に関しては防犯に関係しますが、非常に低いという形です。</p> <p>産業の項目で市街化区域内にある小売商業施設の床面積当たりの売上ですが、平均よりも高く、売上の効率は良いという結果が出ています。</p> <p>ここまでの内容をSWOTのチャートに配置してみました。特徴としてどの</p>

	<p>ようなことが言えるかということですが、縦の列左側がプラス、右側の列がマイナスの評価です。上の行は内部環境、これは都市の構造など変わりようのない部分、下の行の外部環境は経済や人口の動向など変化のある外からの影響を受ける部分という形で整理しました。</p> <p>左上の「強み」ですが、土砂災害の危険区域が少ないことや避難場所までの距離が短いことを挙げました。公共交通へのアクセスがしやすいことも強みです。同じく自家用車への依存度が低いことも強みです。医療施設や商業施設が使いやすいことや歩道の設置率が高いこと、空き家率が低いことなども強みとして評価できると思います。</p> <p>左下の「機会」ですが、全国的に特に地方都市で問題になっているドーナツ化については全国平均との比較で見ると顕著ではない、既成市街地の人口密度はどうか維持されている。DID の人口密度も比較的高いということも「機会」に挙げております。人口の動向については、極端に減少していませんし、今後も減少するものの、まあまあ維持されるということは機会として捉えられます。その他商業施設の売上効率や施設の持続性に関しても機会として評価できると考えます。</p> <p>右上の「弱み」ですが、浸水想定区域が広いので大規模な水害が起きた時は避難等の課題があると言えます。既に立地適正化計画で指定されている居住誘導区域の人口密度が若干低いように見えます。これは区域が若干広めに指定されている可能性があります。裏面を示す市街化調整区域の人口密度の高さは周りの集落に人口がかなり分布していることを示しています。これは旧町から成り立っているという歴史的な経緯もあり、結果としてコンパクトシティの面でいうと「弱み」であると思います。市街化区域の人口密度は高いのですが、先ほども申しましたように居住誘導区域の人口密度は低くなっています。</p> <p>右下の「脅威」のところですが、洪水等の災害が増えている中で、浸水想定区域が広いということは本市の置かれている状況の基礎になりますので、防災に関する取り組みが重要になってくるということは間違いありません。財政面で人口1人当たりの歳入額が小さいことや、平均寿命が短い、理由は分かりませんが「脅威」として整理しておきます。ここまでは全国の人口10万人未満の自治体平均との比較でした。</p> <p>続いて、6ページ以降に参考として周辺都市との比較をしています。レーダーチャートは左右でセットになっていますが、右側は偏差値50の平均と本庄市だけを抜き出して見える形にしたもので、左側は比較対象を全部プロットしたレーダーチャートになります。比較対象としたのは熊谷市、深谷市、伊勢崎市、藤岡市の4市と本庄市、合わせて5市の平均としております。</p> <p>先ほど全国でみたとおり、DID の人口密度は比較対象都市の中でも高い</p>
--	---

	<p>ということが言えますが、市街化調整区域については低めとなっていることが確認できます。近年の人口動向は周辺では伊勢崎市の伸長が目立っておりまして、比較すると本市は若干低調となっています。財政については直接比較できませんが、1人当たりの維持補修費が比較的大きいという評価になっております。</p> <p>次のページ、生活利便性というところです。この比較対象都市の中では、一定以上の運行本数がある基幹的公共交通の徒歩圏カバー率が高く、公共交通が便利であるということが言えます。マイカー依存度も若干低くなっています。医療・商業施設の徒歩圏カバー率も本市は高いという評価です。</p> <p>最後、8ページです。健康福祉・安全・産業ということで、保育所の0～4歳人口カバー率ですが、熊谷市に近い水準で高めです。公園の人口カバー率も高いです。平均寿命率ですが、先ほど全国で見ると女性の平均寿命が短いと出ていましたが、理由は分かりませんが、周辺都市の中では本市は男性の平均寿命が短いということになっています。資料3のご説明は以上でございます。</p>
尾崎会長	引き続き資料4のご説明をお願いします。
コンサルタント	<p>続けて資料4のご説明に入ります。</p> <p>資料4は災害リスク・防災です。現在の立地適正化計画が策定された当時は防災指針の策定は義務付けられていませんでしたが、全国的に居住誘導区域に浸水想定区域が含まれる都市が多いことが問題視されるようになり、何も防災の方針を立てずに居住誘導区域に浸水想定区域を含めるのは如何なものかという議論があり、防災指針を策定することが義務付けられました。策定にあたっては、災害リスクの分析をすることが手引きで位置付けられました。これに関する評価を今回できている部分までご説明させていただきます。</p> <p>資料2ページです。本市は既に立地適正化計画を策定しているので、居住誘導区域の周辺を評価対象区域とします。災害の種別としては、①地震②水害③土砂災害④大規模盛土造成地、全ての災害に共通しますが⑤避難対策という5項目の視点で整理しました。</p> <p>資料3ページです。災害リスクの評価では居住誘導区域の地区名を頻繁に申し上げますので、その位置の確認を図面でしております。居住誘導区域は市内の市街化区域の中に3ヶ所指定されており、①本庄駅周辺地区②本庄早稲田駅周辺地区③児玉駅周辺地区があります。</p> <p>資料4ページからは地震です。埼玉県が一番北の都市ということですが、これまでの震災の履歴の主なものを追いかけてみると、大きいものでは関東大震災、西埼玉地震、記憶に新しい東日本大震災の3つになります。古い関東大震災、西埼玉地震に関しては目立った被災記録は無いと資料からは確認しております。東日本大震災においては震度5弱の揺れがあり、主に</p>

<p>灯籠や瓦などの倒壊があったと整理されています。</p> <p>続きまして6ページです。将来どのような地震がこの地域で想定されているかということですが、主に断層型の地震が想定されています。これは国が整理している資料です。これから起こる可能性がある地震の震源は深谷断層帯で、これは西埼玉地震の震源でもあるとされています。この断層が動く形で地震が発生した場合、最大M8.1でして、30年以内の発生確率は0.008%とかなり低い想定となっています。</p> <p>続きまして7ページです。こうした想定も踏まえて県の方で平成26年3月に県全体の地震被害想定調査というものを実施していました。本市に関わるものとしては関東平野北西縁断層帯地震が想定されていて、被害については全壊5,517棟、半壊が4,882棟、焼失が617棟、人的被害は死者が365人、負傷者が1,622人、うち重傷者が471人という被害想定になっています。</p> <p>続いて8ページです。この想定されている地震の揺れがメッシュで評価されていて、250mメッシュで色塗りされています。居住誘導区域と震度分布の関係を見てみると児玉駅周辺地区に震度7のエリアが広がっています。本庄早稲田駅周辺地区は6強から7、本庄駅周辺地区に関しては6強という想定震度になっています。</p> <p>続きまして9ページです。液状化に関しては市街化区域外ですが、平低地の部分で液状化の可能性が黄緑色の「低い」と黄土色の「やや高い」という区域が広がっています。居住誘導区域に関しては液状化の可能性はほぼ無いという想定です。</p> <p>続きまして10ページです。全壊棟数の分布、これは比率ではなく実数の分布です。これはほぼ想定震度が強く、住宅の密集度が高いところで全壊棟数も多めの想定になっており、児玉駅周辺や本庄駅周辺等で250mメッシュ当たり20棟程度の全壊が起こるだろうという想定になっています。地震に関しては以上です。発生確率がかかなり低い地震ではありますが地震はいつ起こるか分かりません。災害が少ないのが本庄市の良さとおっしゃる方もいらっしゃいますが、常に備えが必要です。</p> <p>11ページからは水害です。12ページで本市の水害の履歴を辿っています。大きい外水氾濫を伴う水害は記録されている限りでは、1947年のカスリーン台風が最も大きかったという記録になっています。内水氾濫の方が頻度としては高く、現在整理中で今回は資料が入っておりません。昨日も大雨がありましたが、どこで内水氾濫が起こったかという情報を実情で整理していますので別途評価をさせていただきます。ここから先は外水氾濫です。川が溢れてしまった時の洪水はどのように起きるのかという評価です。これは13ページにありますとおり、浸水想定を国と埼玉県・群馬県が行っているシミュレーションを合わせる形で、平成30年3月に洪水ハザードマッ</p>
--

<p>プを作成し各戸に配布され、最新版は令和3年3月に配布されたとお聞きしています。このデータを読み解いて整理をしているとご理解ください。</p> <p>続いて14ページです。国と県の管理河川について想定を表に整理しています。災害が起きる頻度と規模ですが、L2というのが1,000年に一度クラスの被害想定ということになります。L1は100年に一度の高頻度で起きる想定です。右側に氾濫流、川が溢れて建物を押し流してしまうということが想定されている区域が居住誘導区域にかかっているかということ星取表のような形で整理したものです。これを図にプロットしたものが15ページの浸水想定区域の図面に出ています。これは色が濃くなるほど浸水深が深くなります。この被害想定はL2に対応したものです。居住誘導区域の中には色の濃いエリアは含まれていません。当初計画を策定されたときに危険なエリアは外しているのに含まれるはずはないのですが、0.5m未満の浅い浸水想定区域が本庄駅周辺地区の西側に広がっています。床下浸水が発生する可能性がありますので平時から周知が必要です。内水氾濫については改めて詳細な調査をしたいと考えています。</p> <p>16ページからは土砂災害です。本市は南側が山間部となっており、こちらにはレッドゾーン特別警戒区域、イエローゾーン警戒区域といった居住誘導区域には含んではいけないエリアが散在していることが確認できます。ただ、居住誘導区域の中に関しては、そういったエリアは含まれていないことが確認されました。</p> <p>18ページからは大規模盛土造成地です。昨年熱海市で大きな土石流災害があり、その原因の一つが造成地の崩壊であったと言われており、全国的に総点検がされたことがニュースになりました。本市に大規模盛土造成地がどのくらいあるのかを確認したところ、市全体では26ヶ所ありましたが、居住誘導区域内にかかっているものは2ヶ所、谷埋めの盛土があり、付近に危険な建物が無いことは地形図上確認しております。</p> <p>20ページからは避難対策についての評価です。道路網図と先ほどのL2の浸水想定区域図、川が溢れた場合どこまで水が溢れるかという評価を掛け合わせまして、最大規模の豪雨で洪水が発生した場合、通れなくなる道路がどのくらいあるのかを評価したものがこちらの図面になります。浸水が無い区間についてはグレーの線、他の色が付いている区間は浸水する区間です。0.5mくらいでも人が歩くのは困難だと言われてますし、車も通れなくなる可能性がありますので、こういった場所があることを周知しておく、早めに避難ができるような対策をとること、適切に避難場所が指定されていることが必要になります。もしそういったことに不備があれば何かの施策を打っていかねばなりませんので、防災指針に位置付けることとなります。</p> <p>最後22ページです。こちらは現在の本市の指定緊急避難場所の分布状況</p>

	<p>を地形図にプロットしたものです。基本的に避難場所には徒歩避難することが原則になっており、歩いて避難できる限界の中に必ず避難場所があるように計画的に配置していくわけですが、過去のアンケート等によれば徒歩で避難できる距離というのは2 km くらいまでであると言われております。ということは避難場所から2 km を超えてしまうような場所が無いようにしていかなければなりません。この図の色分けは遠くなる程赤くなり、2 km を超えると白地のエリアとなるという塗り方にしましたので、白地のエリアが無いことが望ましいです。こうしてみると居住誘導区域に関しては基本的には白地のエリアは無く、一部大規模な施設がある関係で白地となっている箇所がございます。人が住んでいる場所については1 km を超えるようなところもあり無いということが確認できましたので、避難場所の設定については適切だろうという判断ができます。</p> <p>以上長くなりましたが、資料3と資料4のご説明をさせて頂きました。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。今回市長から2つご諮問頂いた都市計画マスタープラン、立地適正化計画、それぞれ出てきますが、特に立地適正化計画に関連してくることになります。ただいまのご説明に対してご意見、ご質問がございましたらよろしくお願ひいたします。何かございますか。</p>
久保田委員	<p>2点よろしいでしょうか。1点目はレーダーチャートの分析ですが、人口が10万人未満で区切られています。本庄市の人口は8万人弱ですが、8万人弱の市を10万人未満として適切であるか、どこで足を切っているかわかりませんが、もしかしたら5千人の町も、村も入っているのではと思っています。その中で平均値を出すのは適切であるか。平均10万人くらいであれば、ある程度ポジションは分かると思うのですが、10万人未満と8万人弱のまちを比較したときに「比較的良い」という分析は適切であるのかということです。</p> <p>2点目ですが、SWOT分析というのはマーケット分析に用いるものであり、自分のポジションを知って、徹底的に戦略を議論していく、どうやって戦いに勝つかという手法だと思っています。ところが今回の分析は、どういう立ち位置で、「強み」「弱み」「機会」「脅威」を出すのか、色々な考え方ができます。このSWOT分析の結果をどう活かすかが一番大事なところだと思います。「強み」「弱み」それが無くてちょっと散漫な感じがします。今回の分析結果から新しい戦略を立てられるのかということです。この2点をお願いします。</p>

コンサルタント	<p>1点目のご意見は、おっしゃるとおり、このレーダーチャートに関しては、小さい町村も含まれております。これと比較の意味があるかは、全国のデータで計算しやすい形で出ているのが今回の比較対象であり、人口規模が近い都市との比較でもう一回出し直してみたらどうかというのは、ご意見のとおりだと思います。色々と試していきたいと考えております。</p> <p>2点目のSWOT分析に関してですが、これは確かに企業等で使うもので、戦略環境をどう見るかということと今後の展開の可能性、その2つの入口と出口の部分が無いと、やることにあまり意味が無いのではないかと思います。指摘はあると思います。実際に行政でこのような評価をするという例は実はあまり無く、産業関係の計画等ではよく用いられます。立地適正化計画でのまちづくりの計画で総合的に用いるというのは、参考例の無いところですが、都市構造の評価に限って用いてみるとこうだったという中途半端な分析になっているというのは、ご指摘のとおりかと思えます。</p> <p>市内でいろいろ議論してきた中で気づいた点や今回の評価で気づいた点がありました。アンケートの結果と全国比較や周辺都市との比較は、かなり乖離があるようで、皆さまから意見が出ていました。</p> <p>おそらく住民の皆さまは、現在の都市の規模よりももっと大きい都市や利便性の高い都市との比較をされているということで、満足度を聞いたりすると、必ず低めの評価が出る。これはもう常にそうだとことが分かると思います。ただどこまでできるのかということだったり、果たしてそれが持続的なのかということだったりを見ているときに、ミニマムってどんなものかという視点ももしかしたら必要なのかもしれないと思いました。一応両側から見ようということ今回2つの分析をしているというように気づきを得ました。そのような検討を現在しているので、まとめ方に関しては今回のご意見を参考にさせて頂いて、もう少し深めていきたいと思えます。</p>
久保田委員	<p>理解できましたが、都市間においては、私は競争だと思っており、人を集めて産業を集めて、あるいは産業に勝つ、企業を誘致する、これは競争です。先ほどの高いものを要求すると満足度は低めに出る、これは確かに統計上そうかと思います。しかし、逆に弱みのどこを強くすればいいか、強みのどこをより一層強くすることで、どれぐらい競争力を持っていくかという視点が必要だと思います。そういう整理も是非お願いしたいと思えます。</p>
尾崎会長	<p>私もこのSWOT分析については、とりわけこの4つに分類したい気持ちは分かりますが、内部環境と外部環境をどのようにマッピングしているのか、もう少し検討された方が良かったと思えました。これを戦略的に使っていきましょうという手法、そのチャレンジは大事だと思います。計画に反映できるというところを意識しながら、色々なものが入るとするのはご指摘のとおりですので、どう使うか考えながら進めて頂きたいと思えます。他に</p>

	意見、ご質問がございましたらよろしくお願いいたします。何かございますか。
柿沼委員	<p>資料3の最初の文章のところに、「コンパクトシティの実現のためには」という書き方をしていますが、コンパクトシティを実現させるということが、皆さま共通の大きな目的として認めている書き方をしている気がします。しかし色々なアンケートなどを見ると、市民の皆さまはそのようには思っていないというのが伺われます。</p> <p>過ぎてしまいましたが、先ほどの資料2の8ページに、事業所アンケートがあります。集約型のまちづくりが似たようなことかと思うのですが、7割弱が集約型のまちづくりを推進すべきとしているが、事業運営にあたって6割弱は「事業所周辺に人口が集積していることは重要ではない」と、それから5割弱が「駅周辺などの拠点に公共施設や店舗等の集約を図ることは必要ない」と書いてあります。ということは、そんなに集約してほしいとは、事業所の人達は思っていないのではないかとというのが伺えます。それを見てから全体に出したアンケートを見ましたが、全員に同じことを聞いているわけではないので比較ができないと思います。そういうことを考えた時に資料3の5ページのSWOT分析で、前提が集約型だった場合、居住誘導区域の人口密度が低いことをマイナスになるという書き方なのかと私は理解しました。要するに言いたいことは、ここにいる皆さまで計画を策定していく中で、アンケートの結果も踏まえながら、どういう方向で考えていくのかという時に、初めから「コンパクトシティの実現のためには」と、このことを前提にしてしまっているのはどうしてなのかと思い発言しました。</p>
事務局	<p>総合振興計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、本庄市の大きな戦略的な流れとして、人口減少、少子高齢化と人が減っていく中で都市がどんどん膨らんでいくのはどういうことかと、財政的にも厳しくなり納税額も少なくなっていく中で都市の色々な基盤を支えていくお金が無い。ただ都市が膨らみ、道路や下水道などの色々なライフラインが広がっていくと、今後20、30、40年と長い目で子供や孫の代まで見た時に、果たしてその大きく膨らんだ都市を維持できるかどうかというのがすごく大切になってくると思います。本庄市の大きな方針として総合振興計画の中でもこのようなコンパクトなまちづくり、3つの都市、本庄駅・本庄早稲田駅・児玉駅を中心として市街地を小さくまとめていこうというのが大きな流れです。長い期間での目標ということになっておりますので、コンパクトシティというのは全国的な流れでもあります。本庄市もその流れで行きたいというのが大前提です。その中で居住誘導区域内の人口密度が低いというのは、古いまちなみが本庄駅と児玉駅の周辺にあり、空き家や空き地など有効に土地が使われていないという現状があるので、今回の見直しの中で</p>

	<p>もキーポイントとして、そういった古いまちなみの再生も1つのテーマになってくるかと思います。また、人を呼び込むということで、新たな産業団地の創設や雇用の創出というのも大切になってくるかと思っています。そういうところを本庄市は今後どうして行くのかというのを、今、総合振興計画の策定の中でも議論しております。それを受けて整合性を図るということで都市計画マスタープランと立地適正化計画の中でも、ぜひ盛り込んでいきたいと考えております。このような、今回出た色々な資料を、どのように計画に盛り込み、今後のまちづくりとして、人口減少、予算の無い中でどう持続可能な都市にしていくかということ、市民の皆さまとしっかりと共有して行くということがすごく大切ですので、力を入れて行きたいと考えております。</p>
久保田委員	<p>コンパクトシティというのは常識、時代の趨勢だと思っています。コンパクトの仕方という意味で柿沼委員のおっしゃったことだと思います。これはやらなければならないことだと私は思っています。1つ聞きたいのは3拠点というのが既に限定されている、駅が3つあるから3駅、なぜ3駅なのか、先ほどもアンケートなどで駅の依存度も非常に低く10%強しかありません。アンケートとコアの施策がマッチしていないと思います。私は長く都内に通勤していましたので、基本的に鉄道の利便性というのは感じますし、本庄駅と本庄早稲田駅の線はもっともっと太くするべきだと思います。ただ何となく駅が3つあって、ただ何となく同じ線の太さで結んで、何となく昔から本庄市と児玉町が合併した時にバランス感や色々なことから決まっていると思います。</p> <p>一方で、まちなか再生というのはすごく大事なテーマだと思います。これは線引きだけではできません。人の顔が見えないです。今もこの中で人の顔が一切見えない、要するに人がどうやって生活し、どう行動し、そこでどうやって化学反応を起こしていくか、ということがなければまちなか再生するはずがないと思っています。私は、生まれも育ちも本庄市ですが、仕事の関係であちこち住んで、ディベロッパーに長くいたので北海道から沖縄県までずっと開発をやってきて、色々なまちを見てきました。線引きだけではダメです。これはまさに都市計画を見るとそんな画しかなく、人がない。アンケートの中でも参加したい人はたくさんいます。これを取り込んで、人を呼び込まないと、今の流れを止めることは絶対にできないと思います。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見、ご質問がございましたらよろしくお願ひいたします。何かございますか。</p>
柿沼委員	<p>私は今言われたコンパクトシティの流れや、本庄市の計画の中での位置づけということは分かって聞いていたのですが、例えば、女性、男性ともに</p>

	<p>平均寿命が短いとか、ここで審議することではないと思いますが、色々な関連する分野でうまくいかない形だけ計画してもうまくいかないと思います。私も審議会は初めてなので感想みたいなものも含めながら、言えるところで意見を言っただけですが、さっき言ったようにちょっと分からないと感じたことを述べておきます。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。率直なご意見で、よく分からない、これはこういうやり方で適切なのかというような意見を頂戴しているのは事実です。これは今日決めるわけではございません。まだこれから分析を深める、読み込むとおっしゃっているので、あと2回ほど予定としてはこういう場があるので、その時にはご指摘を反映した内容が出てくるということで進めて頂きたいと思います。</p> <p>他にご意見、ご質問がございましたらよろしくお願ひいたします。何かございますか。</p>
小林委員	<p>本庄市、児玉町が合併し3つの駅があれば便利で良いと見えるのですが、児玉地域にある児玉駅が非常に残念な姿になっています。私は3駅ある中の「ある駅が」でもいいし、地名を挙げてもいいですが、多少の悪口や欠点、残念なところを書き出して頂くことが本庄市にとってはより参考となり、今後の道筋をつけるのに良い資料に仕上がるかと思ひます。本庄市は今後どのように心がけていくことで明るい先が見えてくるか、これが分かればコンサルタントにお金をかけた価値があると、審議委員として参加させてもらい感じました。通常なら3駅あるから非常に交通の便が良い、頼もしい、他市に負けないと見えますが、実は中身は違ひ。そんなところも表してもらえれば行政側も参考になり、我々議員としても、お願ひしたり、発破をかけたり、自らも努力をしたりと、より有意義な審議会になると思ひます。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。ご質問、ご提案を頂戴しましたが回答お願ひいたします。</p>
事務局	<p>まずは3駅、先ほどご指摘があったように本庄市の中で課題というのが絶対にあると思ひます。まずその課題を偽ることなく、しっかりと把握してから対策としてどう施策を打っていくのが基本になると思ひますので、その辺は今回のアンケートと資料をしっかりと分析し、良い計画にしていきたいと思ひます。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。他にご意見、ご質問がございましたらよろしくお願ひいたします。何かございますか。</p>
田端委員	<p>今、事務局がおっしゃるように3駅のこともしっかりに必要です。私も農業一筋に生きてきましたが、やはり農業委員でも3駅というのは駅の周辺300mは3種農地で農地転用できる、ただ本庄市が都市計画マスタープランに入れて計画していけば、県の都市計画審議会でもすぐ了承しますが、3</p>

	<p>駅の他にも一番便利なインターチェンジがあるじゃないですか。なぜそこに触れていないのかという気がします。私は農家であり、潰さない農地も必要ですが、ある程度発展、発信するために使えるなら使ってもらってもいい、その代わり良い農地は残していけばいいというのが私の意見です。できればそちらの意見も組み込んで頂きたいです。3駅だけを中心にとするのは、それは意見であり良いですが、このSWOT分析も、色々な意見を抽出しながら、良い所は良い、これは悪いとしながら、この審議会を進めたいと思います。農業委員が農地を潰すなんて失礼ですが、インターチェンジをうまく使えるようにしたいと思っていますので、是非お願いしたいという意見です。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。是非、今の意見も反映できるようにご検討お願いいたします。今日頂いたご意見をきちんと反映し、より立派なものが出てくると私は期待しています。事務局とこれからの進め方をご相談頂いて我々のニーズ、我々審議会での意見を反映して頂きたいです。</p> <p>他にご意見、ご質問がございましたらよろしくお願いいたします。何かございますか。</p>
久保田委員	<p>今日はブレインストーミングみたいなものもあり、調査をした結果のご説明がありました。3回目はきっと答えができていますね。となるとあと1回の議論で何ができるだろうというのはありますが、それはおそらく悪く言えば形式的なものです。良く言えば色々な意見を吸い上げてくれるチャンスだと思います。しかしそれが今回とあと1回でどうできるのか。そのプロセス、ロードマップは示して頂くべきだと思います。時間を使ってこの議論を一生懸命やっているのだから、それをどう反映して、どのようにまとまってくるのかというのがなく、あと2回、いや、実質1回です。それはかなり重要なものだと思います。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。事務局はどう考えていますか。</p>
事務局	<p>まず2回の審議ということですが、このあと、今後の予定という中でも触れますが、この審議会にかける前に庁内でも、しっかり揉んでいきたいと考えております。庁内検討委員会の中でも各課の代表に参加して頂いて、しっかり議論した上で皆さまに提案したいと考えております。また、今回の計画2つは時点修正ということで、基本的には今までの考えを踏襲しながら新たな考え、新たな課題というのを追加や削除をするという形になります。児玉町と合併した当初は1つのまちにするということで、色々な議論をした上で、このような計画になってきたというところがあります。今回はあくまでも時点修正ということで今までとの違いや、見直し点というのを重点にして次回しっかりとご説明したいと思っていますので引き続きお願いいたします。</p>
久保田委員	<p>次回は問題点をきちんと整理した上で、その場で正しい方向性が出ると</p>

	考えてよろしいですか。
事務局	都市計画マスタープラン、立地適正化計画を事前にお配りしましたが、整理の仕方として分かりづらいというご指摘を受けたこともございました。整理の仕方や市民に対する周知の仕方、その辺の工夫を行いたいと思います。さらに、今現在起こっていること、社会情勢などもしっかりと反映して、市の進む方向を、先ほど田端委員からもご指摘ありましたが、プラスアルファを加えた上で違いを見せていきたいと思います。その時にまたしっかりと審議をして頂ければと思いますのでお願いいたします。
川崎委員	初めてここに参加させて頂いて、先ほどもお話に出た形式的な感じを非常に受けました。平成24年6月から平成25年3月の議事録も読みました。まちづくりというのは本庄市を俯瞰して線ではなく面で直して行くという感覚で実施していくというのは分かっているのですが、それと並行して人口に重きを置いてもらいたいと思っていました。平成24年の時の会議の中でも人口減少、高齢化を問題にしていました。もちろん国でも少子化対策大臣を2007年、上川陽子大臣から、現在の岸田内閣では野田聖子大臣を置いています。1.3%をうろうろしているだけで一向に改善されていません。モデルケースとして明石市の泉市長が実施している子供の人口を増やす政策に私は凄く感動しました。まちが活性化して1人当たりの税収が日本の平均でも6万円あるというのです。また太田市では1人当たり11万円、東京都の港区などは24万円という税収が得られるそうです。ということは人口さえ増えれば本庄市でも税収は増えていくわけです。なぜ平成24年の時でも懸念していた人口減少に歯止めをかけられないのか、人口を増やしていこうというテーマにはなっていないのか。大きなテーマとして持続可能としているのであれば人口を増やしていくという政策をなぜ打たないのだろうというのをすごく不思議に感じていました。もちろん都市計画というのは3駅やインターチェンジなど、そういうところを開発していったらみんなが住みやすいまちになると思いますし、人口を増やすということも考えてもらうことで持続可能につながると私は思っています。しかし、アンケートの結果をまとめて、ある程度の方向性でこの会議が成り立っているのかと思ったら、ああこんなものかとちょっとがっかりした部分がありました。それに今ここにいらっしゃる皆さま、女性は柿沼委員と私だけです。本庄市というのは男性だけで成り立っているわけではなく、市役所にも女性の方がいらっしゃると思いますが、女性職員の方などにも、入っていただきたいというのが私の感想です。
尾崎会長	ありがとうございました。 事務局から、ご説明お願いいたします。
事務局	本庄市としても人口を増やすということで、色々とシティプロモーションに今後取り組んでいきますし、もちろん今も取り組んでいます。選ばれ

	<p>る市にならなければいけない、ということで様々な取り組みをしているところ。その結果もあり、この前の国勢調査では人口が微増し少しは成果も出始めているのかと思います。本庄早稲田駅周辺もかなり人口が増え、児玉南の区画整理区域なども人口が増えています。一方、まちなか、本庄駅、児玉駅の周辺は減り方のスピードが速く、ただ想定していたよりは減り方が遅いというような実績も出ています。それも職員が、子育て分野、シティプロモーションの分野、福祉の分野など本庄市の良さというところをアピールしたり、外から人を入れたり、本庄市に住んでいる人が外に出て行かないような地道な努力をしたりしている成果がいくらか出てきているのかと思います。この都市計画審議会の新たな計画の中でも、できるだけ人口を維持して行く、本来は増やすのがベストだと思いますが、全国的に人口が減っていくという中で、その辺もしっかりと見据え、どういう都市にしていくのかというのは、是非、この中で活発に忌憚りの無いご意見を頂ければ計画にどんどん反映して行きたいと思いますので、どうぞ遠慮無くご意見をお願いいたします。</p>
久保田委員	<p>維持しようというお話がありました。維持しようでは減ります。人口を10万人にしようとか、数値目標というのは議論しないのですか。10万人にしようと思えば目標を置いた瞬間に世界が変わってきます。2万人増やそうと思ったら絶対に変ってきます。減らさないと増やすでは全然発想が違うので、是非そういう議論をお願いしたいと思います。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>どういう形で数値目標を立てることができるかというのは知恵を絞って頂くことにしましょう。</p> <p>他にご意見、ご質問がございましたらよろしくご意見を伺います。何かございますか。</p>
小賀野委員	<p>久保田委員からお話がありましたが、PDCAの「プラン」はできていますが、「チェック」ができていないという状況です。この10カ年計画のうちの5カ年ということで中間にして、どこまで目標を達成したのかと、足りない部分はどのように行くのかという話になると思います。そういった資料を提供して頂ければありがたいです。</p>
尾崎会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これはぜひ事務局で、次回になるかと思いますが反映したようなご報告を頂ければと思います。他にご意見いかがでしょうか。よろしければ時間も経ってきましたので、本日のところはここで閉じようかと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これにて本日の審議を終了いたします。冒頭ご説明いたしましたとおり全3回、継続審議ということですので、本日の審議は終了とさ</p>

	せて頂き、議長の任を解かせて頂きます。
事務局 (都市計画課長)	ありがとうございました。次第に則りまして、その他ということで事務局より情報提供させていただきます。
事務局	<p>その他ということで本日配布させて頂いた資料2種類ございます。</p> <p>1つ目は右上に情報提供資料とございます、総合振興計画、基本構想、土地利用構想の見直しについて、各案というもの、もう1つが都市計画マスタープラン及び立地適正化計画改定の今後の予定というもの、こちら2種類について、ご説明させていただきます。</p> <p>まず総合振興計画の土地利用構想見直し案についてです。こちら総合振興計画は、まちづくりの総合的な指針を示すものでまちづくりの計画の中で最上位に位置付けられているものです。市の最上位計画ですので都市計画マスタープラン、立地適正化計画の両計画についても、この総合振興計画との整合を図りながら改定を進めていくこととなります。こちらの総合振興計画の中で土地利用構想というもの、市の将来の土地利用方針を示すものがあります。今年度こちらの見直し改定が進められていることから、現時点の案をご紹介いたします。資料最後のページ土地利用構想図をご覧ください。左側の図が見直しを進めている案になります。凡例にもありますとおり、市内を「快適市街地形成ゾーン」「産業集積ゾーン」「発展創出ゾーン」「田園環境調和ゾーン」「自然環境共生ゾーン」の5つに分けております。詳細なご説明は省略させていただきますが、全体の考え方をご説明いたします。まず3つの駅の周辺がピンク色で着色されていますが、商業の集積や都市基盤の充実、これらを図ることで快適に暮らせる市街地の実現を目指す「快適市街地形成ゾーン」と位置付けております。また産業立地など地域活力の新たな創出を図るゾーンとして「発展創出ゾーン」というのが水色の丸で囲まれている箇所です。市の北部で現在整備を進めております17号バイパス本庄道路の沿道と本庄児玉インターチェンジ周辺、こちらは交通利便性が高く産業立地ニーズが高いエリアとして産業等の立地を検討する「発展創出ゾーン」と位置付けております。また、その他の3つのゾーンでは既存の産業団地を維持するとともに、自然環境や田園環境と調和した土地利用の誘導を進めていく方針となっています。各ゾーンの考え方、土地利用の方針につきましては1、2ページ目に記載がありますので、ご確認頂ければと思います。こちらの土地利用構想に沿った形で本日頂戴したご意見を参考にさせて頂きながら都市計画マスタープラン、立地適正化計画の改定を進めて参りますので、よろしく願いいたします。こちらの土地利用構想案につきましては今後変更の可能性もありますが、現時点での案ということでご承知おき頂ければと思います。</p> <p>続きまして今後の予定についてご案内いたします。都市計画マスタープラン及び立地適正化計画改定の今後の予定をご覧ください。両計画の今後</p>

様 式

	<p>のスケジュールですが、都市計画審議会での審議は来年1月上旬、2月中旬の2回を予定しています。1月上旬の審議会にて計画素案について、ご審議頂いた後、市民の皆さまからご意見を頂くパブリックコメントを1月の下旬から1ヶ月程度予定しております。その後2月中旬の審議会パブリックコメントの結果と最終的な計画案についてご審議頂き、最終的な計画の決定は来年3月下旬を予定しております。審議会の日時等につきましては開催日が近くなりましたら、その都度お手紙でご案内させていただきます。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>以上で事務局より情報提供を終了させていただきます。この他委員の皆さまから何か情報提供等ございますか。</p>
久保田委員	<p>先日、日経新聞でも取り上げられていましたが、国交省が支援している河川を活かそうという「かわまちづくり」というものがあります。こちらは既にいろんなまち、川のあるところで積極的に資源として使っていこうという働きがあります。本庄市は川がたくさんあります。利根川は遠いですが、水辺や自然のものを有効に使うというのは、今日のご説明の中にあっただかと思いました。こういう制度もあって、国からお金も出るかもしれないので、もっと勉強して頂いて使えるものはどんどん使えばいいと思います。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>本日は委員の皆さま、慎重ご審議ありがとうございました。これをもちまして令和4年度第1回本庄市都市計画審議会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
一同	<p>ありがとうございました。</p>